

豊岡まちづくり推進協議会 会議録 令和7年度 第3回

会議概要	
日時	令和8年3月10日(火曜日) 午後6時00分～午後8時00分
場所	東部まちづくりセンター コミュニティスペース
出席者	委員13名(会長、副会長以下50音順) 高嶋会長、浅野委員、宇野委員、北川委員、小林委員、今野委員、清野委員、 瀧本委員、千葉委員、仲川委員、長谷委員、宝住委員、森委員 (欠席 石川副会長、大田委員) オブザーバー 菊池 地域まるごと支援員 事務局 東部まちづくりセンター 原所長、高尾 その他 愛宕公民館 菊地館長 防災課 村上主査 社会教育課 伊藤主査
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 令和7年度 豊岡地域で実施される課題解決の取組(結果) 資料2 豊岡まちづくり推進プログラム(改訂案・見え消し修正)

議事の内容

1 開会

- ・開会し、事務局より欠席者の報告、配付資料の確認があった。
- ・防災課より「旭川市防災これ一冊まとまっぷ」の作成について説明があった。
作成にかかる国から市への補助金について及び公開型GISについて質問があり、各々回答が

あった。

2 協議事項

(1) 豊岡地域のまちづくりの検討と推進について

ア 令和7年度に豊岡地域で実施される課題解決の取組について

イ 豊岡まちづくり推進プログラムについて

・豊岡まちづくり推進プログラム（改訂案）について、事務局及び改訂に関わる団体の委員から説明があった。主な説明内容は次のとおり。

【委員】

「認知症の方を中心とした多世代交流の場」について、令和6年に認知症基本法が施行され、認知症の方を中心とした共生社会を目指すということが謳われているので、昨年10月から包括支援センターが中心となって、行政や地域まるごと支援員、地域のボランティアに協力いただきながら開催させていただいている。

【委員】

「地域防災研修の実施支援」について、令和6年度に防災課で作った防災マップを活用して、災害の可能性の高いエリアで地区防災研修を支援しようということから始めた。R7は開催できなかったが、市の新しい防災マップを活用して、地域の中での防災研修を市と協力して対応できると考えている。

【事務局】

「通学路交差点の安全見守り、街頭指導、下校時の見守りの実施（愛宕新川）」について意見照会により追加した。また、「各地域団体取組のタイアップ」について、第2回会議等で意見が多かったため追加した。

・豊岡まちづくり推進プログラム（改訂案）の説明と並行し、豊岡地域で実施された課題解決の取組について、事務局及び実行委員から報告があった。主な報告内容は次のとおり。

【委員】 <豊岡まちづくりウォーキング事業>

去年は2回開催しているが、開催準備や振り返りも含めて、4回の実行委員会を開催した。1月に開催した実行委員会の中では、オブザーバーの方の参加があった。R8に向けては、コースや実施期間の見直しについて意見があった。

【委員】 <愛あい（子どもの居場所）づくり事業>

今年度もたくさん子どもたちに参加いただいた。ボランティアは、高齢化があるが、募集して若干増えている。来年度も継続し、無理なくみんなで続けられることを子どもたちと楽し

んでやっていきたい。

【委員】 <地域ふれかつマップ作成事業>

地域ふれかつマップは、例年、愛宕地区、豊岡地区を交互に作成している。今回は豊岡地域のマップの更新で、一昨年の豊岡地域のマップに比べると大分刷新されており、対象者を満遍なく掲載することができた。今後ライナー折込で豊岡、新豊岡地域に配布予定となっている。

【委員】 <豊岡消防団活性化事業>

今年度の事業としては豊岡ふれあいまつりに参加し、消防車を展示し、啓発品を配布したが、大盛況で良い啓発ができた。その他、豊岡地区センターで消防訓練、旭川信金でパネル展示と啓発品配布を行った。

【事務局】 <地域学校パートナー事業>

見守り活動は、豊岡地区と新豊岡地区が、光陽中学校区学校運営協議会と協力体制をとり、8月に実施。愛宕地区は8月から月1回、愛宕新川地区は通年で行っている。活動を地域に知ってもらうため「地域安全レポート」というものを作った。実行委員会では、学校の状況も聞き、来年度も学校との意見交換を続けたいという方向性になっている。

・豊岡まちづくり推進プログラムの内容に関わり、委員から、次のとおり情報提供があった。

【委員】

プログラムの課題解決の取組の中にある「多世代が集う地域食堂の開設」について。担い手不足や地域の関係性の希薄化という課題を感じ、全国的な取組を調べたりする中で、昨年挙げさせていただいた。石巻の方でも多世代が集う地域食堂を開設していて、個人宅に訪ねられることを嫌う人も、食堂を介して顔見知りになり、コミュニティが活性化されるという事例があった。この活動も難しさもあると思うが、こういった取り組みもあるとみなさんの記憶にとどまっていたらと思う。

・豊岡まちづくり推進プログラムの改訂について意見・質問等は特になかったことから、資料2のとおり改訂することを確認した。

(2)その他

2グループに分かれ「知ってもらいたいことを、知ってもらうために」というテーマで意見交換を行った。

<グループワーク意見概要>

【Aグループ】

・豊岡地域は利便性の高い街と感じる。そういう良さを知ってもらうことで、他の地域から豊岡に移り住みたいと思ってもらえたら、豊岡がもっと活気づくと思う。

・まちづくり協議会やまちづくりセンターが、まだまだ浸透していない。色々事業をやっているにもかかわらず、地域の人にわかってもらえていない。

・豊岡地区に住んでいて知ってもらいたいと思うのは若い頃の思い出。豊岡に電車が走っていたこと等の実体験を今の子どもたちに話すと目を輝かせる。今の子どもたちが思い出を作れる行事を地域でやってあげたい。

・小学生に語り部っていいと思った。

・自分の育った地域がどんなふうだったのかという勉強は学校でもする。そんな話をすることで子どもたちも自分の地域がどんなだったか、どんなふうにしていったらいいのかという今後のことも考える手立てになると思う。そういう記憶を残していけるような取り組みをしていけたらと思った。

・ここで育った子どもたちがほとんど地元に残らない。今住んでいる人たちに、こういう地域だったと知ってもらい愛着を感じてもらう。昔のような愛着を持つような形の行事は時代の流れとともに難しくなる。こういうことをやっているということをし少しでも浸透すれば、愛着を持ってくれるかもしれないが、浸透させる手段がなかなか見当たらない。今やっていることを継続して認知してもらおうような方向にいければと思って取り組んでいると思う。

・実体験に基づいたこれまでの歴史も伝えながら豊岡の魅力を発信して、いつかまた自分が育った街に戻ってきたいと思う、そういう街づくりができたらと思う。

【Bグループ】

・東光、豊岡、啓明の民児協、社協、市民委員会、勤医協、包括で要支援者名簿を活用した避難行動の支援に取り組んでいる。核となる組織があると、地域がやらなければならないことが明確になる。同じ課題を抱えている組織間でいいアイデアを持っているところもあるかもしれない、できることがあるかもしれない、その広がりが期待できると感じた。

・東光にも豊岡にも地域の人が使え自主防消火栓というのがある。一番大事な初動活動ができ、火災をかなり止めることができる。設置場所の把握、使用方法の説明をすることによって防火意識の向上につながると思う。

・民生委員の活動について。災害、病気になった時に、地域で助け合って安心安全に暮らしていけるようにするために知ってもらいたい。知ってもらうことで、暮らしが豊かになる、地域の活性化につながる。困ったことがあったらあの人に言ったらいいみたいな感じで伝わってい

くようになれば身近になっていくと思う。

・高校生や大学生の職場体験というのがあり、地域に貢献することが大事というのが子どもたちの授業であると思う。小学生でも生活の授業がある。子どもや学生がイベントに関わってもらうことによって、友達へ広がり、知ってもらう方法の一つかと思う。

・市民委員会や町内会はなぜあるのかを知ってもらいたい。
・役員のなり手がなくて解散した町内がある。解散したら街灯つかない。
・危ないことだ。事件があって「なんで電気がついていないの」とはじめて理解できる。そういう事実を子どもたちに知ってもらわないといけない。

・我々の世代になると、1歩も外に出ないというふうになってくるので、元気な時は家から出る、色々なところで催し物、サークル活動がある。参加してみるのはいいこと。情報は自分たちの世代の人達は、たくさん耳にしてほしいと思う。

【会長】

知ってもらいたいことを知ってもらうために、それぞれのグループで話をされたが、こういうことは結論を導いて一定の方向性を出すというのは難しい問題なので、こういう場において意見交換をするということが大きなテーマではないかと感じた。

3 その他

・社会教育課より、地域学校協働活動の光陽中学校区モデル地域が今年度で終了すること、次年度以降、社会教育課は伴走支援をしていくことについて説明があった。

【事務局】（事務連絡）

- ・令和7年度豊岡まちづくり推進協議会に係る謝礼について
- ・委員改選について
- ・次回の会議日程について
- ・令和8年度事業について

4 閉会